

辻 千春 (Chiharu TSUJI)

教授 (教務部長 2018. 4. 1)

[プロフィール]

学位：博士 (学術)

略歴：名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻 修士課程修了

名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻 博士後期課程単位取得満期退学

専門分野：東アジア文化社会学

研究課題：表象文化、植民地文化、異文化接触、中国語教育

[論文・著書]

- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (6) —朝鮮人美術家による日本の創作版画の修得とその展開について—」(『名古屋大学博物館報告』No.33, 2018. 3)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (5) —釜山における清永完治と日本人の趣味家ネットワークによる創作版画誌『朱美』の刊行について—」(『名古屋大学博物館報告』No.32, 2017. 3)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (4) —仁川における佐藤米次郎の創作版画活動と時局下の蔵書票展の開催について—」(『名古屋大学博物館報告』No.32, 2017. 3)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (2) —京城における日本人の活動と『朝鮮創作版画会』の顛末—」(『名古屋大学博物館報告』No.31, 2016. 3)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (3) —京城における『朝鮮創作版画会』解散後の展開と『日本版画』の流入—」(『名古屋大学博物館報告』No.31, 2016. 3)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開—『朝鮮創作版画会』の活動を中心に—」(『名古屋大学博物館報告』No.30, 2015. 3)
- ・「日中両国の報道版画—19世紀に現れた錦絵と年画にみる日清戦争の描き方を中心に—」(『名古屋大学博物館報告』No.27, 2011. 12)
- ・「日本統治期の台湾における蔵書票の展開」(中京女子大学アジア文化研究所『アジア文化研究所論集』第7号, 2006. 3)
- ・『戦争と年画—「十五年戦争」期の日中両国の視覚的プロパガンダ—』(梓出版社, 2000. 1)

[その他]

(研究発表)

- ・『空白の美術史、植地期朝鮮における創作版画の展開についての研究』について (第21回版画史研究会、特別講演会講師、於・東京古書会館、2016年11月)

(その他)

- ・名古屋大学博物館第37回企画展「春を迎える—一年画に込められた願いと意図」の展示協力及び指導 (展示期間：2018年2月6日—5月12日)
- ・2018年2月17日名古屋大学博物館第37回企画展講演会講師 (演題：「飾り絵に耳を澄ませば!?—中国年画でたどる庶民の願い—」)
- ・2018年3月10日名古屋大学博物館第37回企画展講演会講師 (演題：「絵は口ほどにモノを言う!?—中国年画でたどる政治—」)

- ・ 2017年1月 「中国の正月の飾り絵を見る・聞く？」（愛知文教大学公開講座第8回講師）
- ・ 2016年11月 第21回版画史研究会特別講演会講師
- ・ 2016年5月～ 文部科学省 SPH 事業「コミュニケーション能力向上のための中国語会話指導法の研究委託による名古屋市立商業高等学校における中国語会話指導
- ・ 「王樹村老师与我的年画研究—搭建中日友好交流的桥梁」（汕头大学出版社『民间梦报国志：王樹村先生紀念文集』2012. 1）
- ・ 2006-2014年「EXLIBRIS 蔵書票展」企画・提供（半田市教育委員会後援）
- ・ 2016年12月～ 愛知県小牧警察署国際化問題アドバイザー

[研究資金獲得状況]

- ・ 2015-2017年度科学研究費補助金基盤研究(C)「空白の美術史、植民地期朝鮮における創作版画の展開についての研究」（課題番号 15K02181、研究代表者）

[研究テーマ]

「モノ言うビジュアル表現」をテーマに研究してきました。描かれたモノから発せられる様々なメッセージを読み取り、為政者、庶民、制作者、外国人などの視座からながめることで、異文化の存在や交差の有り様の解明を目指します。目下、植民地期朝鮮の創作版画の展開について研究しています。埋もれた植民地文化の一端を歴史の表舞台に立たせ、日韓両国の近代美術史の空白を埋めることを目的としています。そこに両国民のまなざしを浮き彫りにするだけでなく、中国の新興木版画が日本を經由して植民統治下の朝鮮に及ぼした影響も検討しながら研究を進めています。